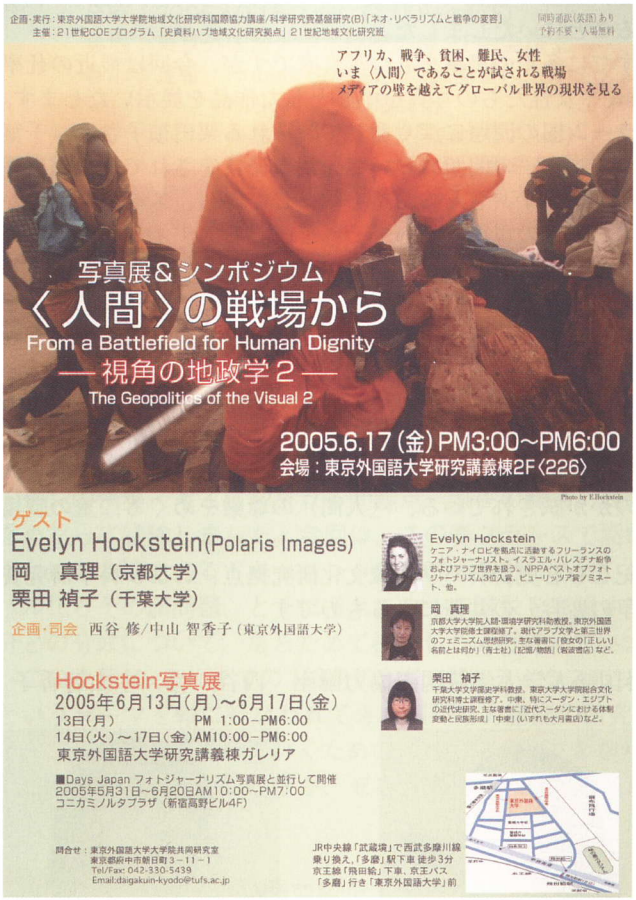
## 2005年度

### 2005.6.17 写真＆シンポジウム〈人間〉の戦場から―視覚の地政学２―

第１回 DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞で、アフリカを取材した優れたシリーズ写真で入賞したケニア在住の Evelyn Hockstein さんを招き、その写真展を開催するとともに、「アフリカ、戦争、貧困、難民、女性／いま〈人間〉であることが試される戦場／メディアの壁を超えてグローバル世界の現況を見る」をテーマに、二人の専門家の報告を交えて討議した。招待者はすべて女性で、それぞれ違った立場、違った角度から発言したが、充実した意義深い報告がなされ、会場を埋めた２００余人の聴衆も熱心に聞き入った。アフリカの難民キャンプの取材、その写真を通してわれわれに伝えられる現場、グローバル化のなかで起こっている事態、触発されるわれわれの関心そのものに隠れた地政学、そこで問われる「人間の尊厳」、それを単にアフリカの問題としてでなく、われわれ自身の現在そして過去の問題へと共鳴させること…、などをめぐって広がりのある議論が展開され、その反響は多くのアンケートに残された。



会場

写真展

わたしたち東京外国語大学の国際協力講座では、世界の「グローバル化」と9.11後の「新しい戦争」の時代に、その世界を情報化するメディアの構造的作用に焦点をあて、昨年度から《メディア・ウォールを突き崩す～9.11以後の世界とフォトジャーナリズム》（6月）、《視角の地政学～メディア・ウォールを突き崩す・Ⅱ》（11月）といった写真展およびシンポジウムを開催してきました。

カタールの衛星テレビ局アルジャジーラからハッサン・イブラヒーム氏、昨年創刊された"DAYS JAPAN"誌の広河隆一氏、アメリカの戦争写真家ジェームズ・ナクトウェイ氏などを迎えて行って昨年度の企画は、幸い多く方々の参加をえて充実した企画となり、その概要は"DAYS JAPAN" 1月号と『世界』3月号に公表されました。

昨年度はイラク戦争とその帰結を背景にこの企画を行いましたが、このプログラムの継続し発展させる方向で、今年度はグローバル化する世界で恒常的な貧困や荒廃や無秩序の暴力にさらされている地域—それは女性や子どもなどの弱者がまず犠牲になるところでもあります－－に焦点をあて、"DAYS JAPAN"の第1回国際フォトジャーナリズム大賞に、印象的なシリーズ作品で入選した、ナイロビ（ケニア）在住の女性報道写真家イヴリン・ホックシュタイン(Evelyn Hockstein)さんをお招きして、上記の日程で写真展＋シンポジウム《〈人間〉の戦場から～視角の地政学・Ⅱ》を開催することにいたしました。

ホックシュタインさんは若くしてすでに多くの実績をもつ写真家ですが、今回は最近の仕事であるアフリカ、とくにスーダンの難民や女性たちの写真を中心とした作品を展示いたします。そしてこの機会に、アフリカのイスラーム圏の問題に深く通じておられる栗田禎子さん（千葉大学）と、パレスチナやこの地域のジェンダーの問題について先鋭な発言をされている岡真理さん（京都大学）をお招きし、ホックシュタインさんのお話を軸にしながら、スーダン問題からグローバル化する世界のなかでのアフリカの現状、そしてそれを伝えるメディアの問題をめぐって、多角的な議論を行いたいと考えています。

奇しくも、アカデミズムの壁を突き破る女性たちにお集まりいただくことになりました。ぜひ、充実した企画にしたいと考えております。皆さま、お忙しいこととは思いますが、ぜひお運びいただき、白熱が予想されるこの企画にご参加いただけたら幸いと存じます。

＊「人間の戦場」という表現は広河隆一氏の本のタイトルでもありますが、昨年秋の《視角の地政学》の総合討論において、議論のひとつの中心となったテーマです。〈人間〉であることが否定されるような悲惨な現場に立って取材すること、そこでは写される現場も写す側も、〈人間〉であるとはどういうことなのかが試されている、〈人間〉の尊厳をめぐる二重の戦場だということです。

＊なお、この企画は本学大学院21世紀ＣＯＥ史資料ハブ地域文化研究拠点、および科学研究費補助研究「ネオ・リベラリズムと戦争の変容」の共催によるものです

東京外国語大学大学院国際協力講座　西谷　修／中山智香子

講演するホックシュタイン氏

栗田禎子さん

岡真理さん

## 2005.10.14-15 映画上映とトーク、ワークショップ「グローバル化と奈落の夢」

東京外国語大学大学院国際協力講座 21 世紀 COE 史資料ハブ地域文化研究拠点主催

### Global Studies 企画 No.1《グローバル化と奈落の夢》

#### ドキュメンタリー『ダーウィンの悪夢』上映会＋討論

日時：2005.10.14（金）16:45 － 20:00
16:30　開場
16:45 －　イントロダクション
17:00 － 18:55　映画『Darwin's Nightmare』上映
19:05 － 20:00　討論：H.Sauper（映画監督）
西谷　修（東京外国語大学）
中山智香子（同）
会場：東京外国語大学研究講義棟２F 226 教室

#### ワークショップ

日時：2005.10.15（土）11:00－14:00
会場：東京外国語大学本部管理棟２F中会議室
参加予定者：Hubert Sauper（映画監督）
NHKアフリカ取材班
真島一朗（東京外国語大学AA研）
船田クラーセンさやか（東京外国語大学）
西谷　修（東京外国語大学大学院）
中山智香子（東京外国語大学大学院）
会場：東京外国語大学研究講義棟２F〈226〉

東京外国語大学大学院・国際協力講座では、今年６月の写真展＋討論「〈人間〉の戦場から～視角のジオ・ポリティクス」に続いて、Hubert Sauper 監督のドキュメンタリー映画『Darwin's Nightmare』の上映および、監督を招いての討論会を企画しました。

６月の企画では、フォト・ジャーナリスト、Evelyn Hockstein 氏を招いて、アフリカのスーダンの情勢、そこに孕まれる問題点、難民の報道、表象の政治性、メディアのあり方などをめぐって議論しました。今回は、この春フランスで話題になったアフリカ・タンザニアを舞台にした迫力あるドキュメンタリー映画をとりあげ、そこにみごとに表現された、グローバル化とその諸問題、とくにそれによって繁栄を享受する世界と、逆に奈落の闇を深める部分との分岐について、あらためて検討したいと考えています。

この企画は、これまでの「視角のジオ・ポリティクス」や「ネオ・リベラリズムと戦争の変容」というテーマを軸に行なわれてきた国際協力講座の研究公開活動を、「グローバル・スタディーズ」へと発展させていくための最初のステップとなります。

ご多忙の折とは思いますが、ぜひ会場においでいただき、多くの方々に議論に加わっていただければ幸いです。

『Darwin's Nightmare』概要紹介

生態系の宝庫で「ダーウィンの箱庭」と呼ばれたビクトリア湖、そこに巨大な肉食魚が放たれたことから状況は一変、この魚を加工輸出する工場ができ、あたりの住民の生活は崩壊する。アルコールに浸る男たち、広がる売春とエイズ、粗悪なドラッグによって道に眠る子

どもたち。魚を運ぶロシアの輸送機、往路には武器を運んでくるのか…。工場の国際競争力を称賛するEUのミッション。なすすべもないタンザニア政府…グローバリゼーションの奈落を深海の悪夢のように描くドキュメンタリー。

（公式HP → http://www.hubertsauper.com/）

この作品は今年度の山形国際ドキュメンタリー映画際に正式出品されており、東京外国語大学での上映は、山形映画祭の協賛で行なわれます。

なお、この企画は東京外国語大学大学院21世紀COE史資料ハブ地域文化研究拠点の21世紀地域文化研究班、および科学研究費助成研究「ネオ・リベラリズムと戦争の変容」の共催で行いました。

## 2005年10月14日（金）第一日

『ダーウィンの悪夢』上映

トークセッション

会場風景

## 2005年10月15日（土）第二日

ザウパー監督を囲んだワークショップ

企画・実行　東京外国語大学大学院地域文化研究科国際協力講座/科研「ネオ・リベラリズムと戦争の変容」
主　　催　21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」21世紀地域文化研究班

上映会＋討論
Screening＋Discussion

# グローバル化と奈落の夢

# A Nightmare of Globalization

A Nightmare of Globalization

生態系の宝庫で"ダーウィンの箱庭"と呼ばれたビクトリア湖、そこに巨大な肉食魚が放たれたことから様相は一変、この魚を加工輸出する工場ができ、あたりの住民の生活は崩壊する。アルコールに浸る男たち、広がる売春とエイズ、粗悪なドラッグに酔って道に眠る子どもたち。魚を運ぶロシアの輸送機、往路には武器を運んで来るのか…。工場の国際競争力を称賛するEUのミッション。なすすべもないタンザニア政府…グローバリゼーションの奈落を深海の悪夢のように描くドキュメンタリー。

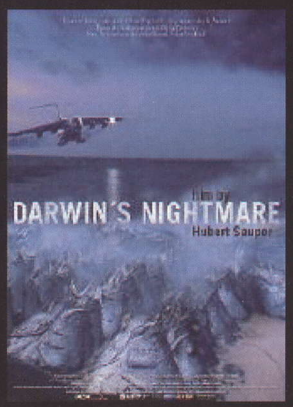
## 2005.10.14(Fri) 16:45-20:00

会場　東京外国語大学研究講義棟2F〈226〉
Tokyo University of Foreign Studies 2F Rm 226

16:30 開場 Open
16:45 イントロダクション　Introduction
17:00-18:55 映画『Darwin's Nightmare』上映
　　Screening "Darwin's Nightmare"
19:05-20:00 討論会 Discussion
　　H.Sauper(映画監督/Film Director)
　　西谷修 O.Nishitani/中山智香子 C.Nakayama

入場無料　予約不要
Free of Charge(No Reservation)
同時通訳（日英）あり
With simultaneous translation(Eng/Jpn)

問合わせ：東京外国語大学大学院共同研究室
　　東京都府中市朝日町3-11-1
　　TEL/FAX　042-330-5439
　　Email daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp
アクセス：・JR中央線「武蔵境」西武多摩川線
　　乗り換え「多摩」駅下車徒歩3分
　　・京王線「飛田給」下車、京王バス
　　「多摩」行き「東京外国語大学」前



Hubert Sauper
ドキュメンタリー映画監督。オーストリア生まれ、パリ在住。『Darwin's Nightmare』他多くの作品が数々の国際的な映画賞を受賞している。

協賛：山形国際ドキュメンタリー映画祭
Coop.: YAMAGATA International Documentary film festival

## 2006年度

### 2006.10.10−11.10「グローバル世界における西洋規範システムのあり方」

「グローバル世界における西洋規範システムのあり方」
ゲスト：アントン・シュッツ

ドグマ人類学のルジャンドル氏を中心とする研究コミュニティ（人間科学館）に長らく関わり、ヨーロッパ法制史のためのマックス・プランク研究所、ナント人間科学館、バークレーのロビンズ・コレクション大学とも関係をもち、最近はG・アガンベンとも近しい法制史・法理論家アントン・シュッツ氏を招聘し、外大、北大などでドグマ人類学や、西洋的規範空間のグローバル化に関わるセミナーを開催した。　（企画・西谷）

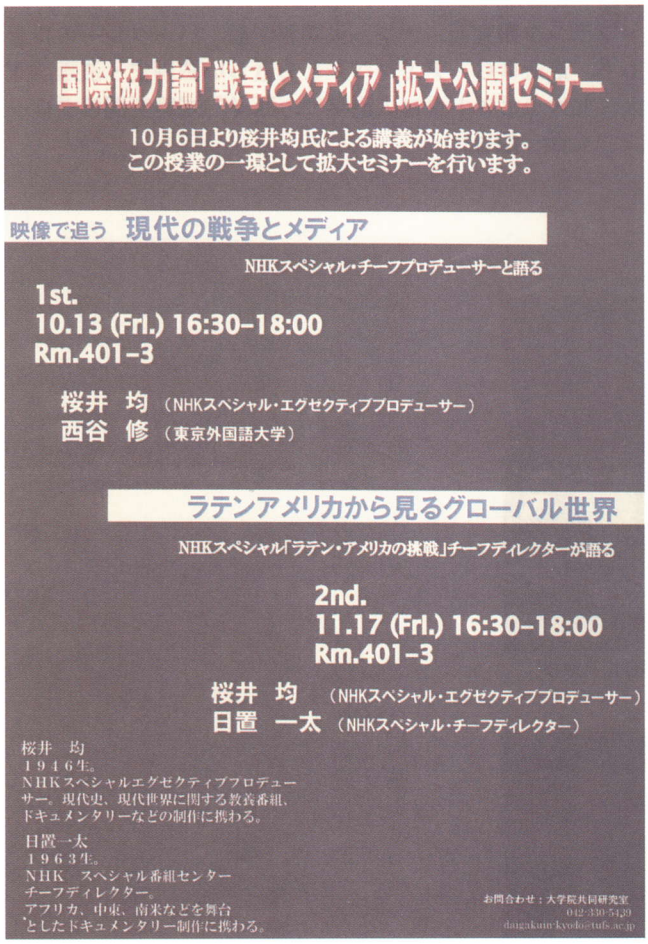
北大でのセミナー（右は北大法学研究科・長谷川晃教授）

外大グローバルスタディーズ（修士課程）・特別セミナー

## 2006.10.13 国際協力論「戦争とメディア」拡大公開セミナー

2006年度、修士課程の「国際協力論研究」の講師に招聘したことをきっかけに、長らくNHKスペシャルの番組制作に携わったエグゼクティヴ・プロデューサー櫻井均氏、その製作チームのディレクターである日置一太氏をゲストに、最近の番組（ラテン・アメリカ関係）を素材として、国際情勢とメディアの関係、ドキュメンタリー製作の課題などについてセミナーを行った。

（企画・西谷）



## 2006.10.06 9.11 後５年アフガニスタンは、今

アメリカによるアフガニスタン攻撃から５年を経た時期に、その後のイラク戦争とイラク情勢の泥沼化で傍らへ押しやられた感のあるアフガニスタンの深刻な状況に焦点をあて、連携講座客員教授の阿部英樹氏（JICA）のコーディネートを得て、日本政府経由の「国際復興支援」の側面と、非政府系の「支援」および「協力」との両側面から報告をえて検討した。これは政府系とペシャワール会などが同席して状況を論じる初めての機会となった。また、本学の伊勢崎教授からは、現在の危機的状況に関する生々しい報告もあった。二つのセッションの間には、当時の大学院生だったジャーナリスト牧良太氏の写真スライド上映もおこなった。

（企画・進行、阿部・西谷）

COE ＋国際協力講座＋連携講座　拡大セミナー

### 「９・11 後５年、アフガニスタンは今」

**日時：10 月 6 日　15:00 - 18:00**
**会場：東京外国語大学研究講義棟 102 番教室**

**第１セッション「国際復興支援と日本」**
田邊隆一　元アフガニスタン支援調整特命全権大使
藤枝修子　開発途上国女子教育協力センター
松島正明　元 JICA アフガニスタン事務所長
コメンテーター：阿部晴樹　JICA・連携講座客員教授

**第２セッション「アスガニスタンの現況」**
福元満治　ペシャワール会広報担当理事
伊勢崎賢治　東京外国語大学
八尾師誠　東京外国語大学

9.11 とアフガン攻撃から今年で５年になる。イラク戦争とその後のイラク泥沼化で後景に退いてしまったアフガニスタンは今どうなっているのか。日本は国際的な復興支援体制の中で最大の資金拠出国としての役割を担っているが、その支援はどのようになされているのか、そして不穏が伝えられるアフガニスタンの現況は？２つのセッションを組んで検討した。

第１セッションでは、田邊元特命全権大使から、国際復興支援の枠組みとそのなかでの日本の役割について、藤枝氏からは、日本の支援のひとつの特徴ともされている女子教育支援の状況について、また実際の支援活動を束ねる JICA の現地事務所長を務めた松島氏からは、カブール周辺の最近の状況や援助状況についての報告があった。これに、コーディネーターの阿部氏から的確な問題点の指摘と質問がなされた。

第２セッションでは、公的枠組みとは別に、援助の現場に関わる観点からアフガニスタンの現況についての報告を受けた。まず、20年以上にわたってアフガニスタンの医療援助を行っているペシャワール会（中村哲代表）から、福元氏に会の活動とここ二、三年の現地の状況についての報告がった。ついで、外務省の依頼で武装解除の任にあたった本学教授の伊勢崎氏から、最近ととみに混迷が伝えられるアフガニスタンの治安状況とその問題点について、生々しい報告があった。最後に、本学が関わる文化財保護事業を担当している八尾師氏から、事業遂行の現状と問題点について報告があった。

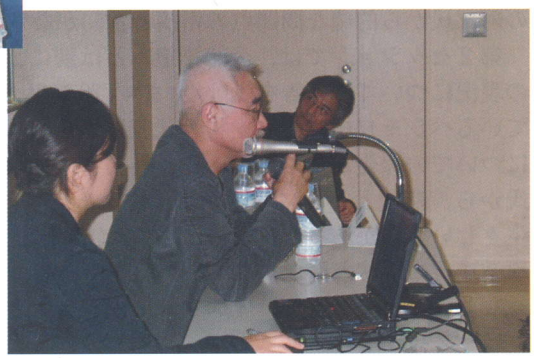
なお、これに加えて、インターセッションとして本学大学院生でアフガニスタン取材の経

験が長い牧良太氏が、フォト・プロジェクションを解説を交えて行った。

悪天候だったにもかかわらず、学内外から多数の人びとの来場をえ（120名）、関心の広さをうかがわせた。

第一セッション

第二セッション



企画・実行　東京外国語大学大学院地域文化研究科　連携講座・国際協力講座
主催　21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」21世紀地域文化研究拠点

予約不要
入場無料

9．11後5年

# アフガニスタンは、今

## 連携講座+国際協力講座拡大特別セミナー

2006.10.06 (Fri.) Rm.102

9.11とアフガン攻撃から今年で5年、イラク戦争とその後のイラクの泥沼化で後景に押しやられたアフガニスタンは今どうなっているのか。日本は国際的な復興支援体制のなかで最大の資金拠出国としての役割を担っている。日本の公的な支援はどうなっているのか、そしてアフガニスタンの現状は？二つのセッションで検討する。

## 1st. session

15:00 –16:25

「国際復興支援と日本」

田邉　隆一（外務省　アフガニスタン支援調整特命全権大使）
藤枝　修子（お茶の水女子大学　開発途上国女子教育協力センター）
松島　正明（元JICAアフガニスタン事務所所長）

司会：西谷　修（東京外国語大学）

Inter-Session
16:30–16:40
牧 良太（フリージャーナリスト）Photo Projection

## 2nd. session

16:45–18:10

「アフガニスタンの生活と文化」

福元　満治（ペシャワール会）
前田　耕作（日本アフガニスタン協会）
八尾師　誠（東京外国語大学）

問い合わせ：東京外国語大学大学院共同研究室
TEL/FAX:042-330-5439
E-mail:daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp

photo by MAKI Ryota

## 2006. 12.25 シンポジウム「グローバルボーダー沖縄の今」

復帰後 30 年を経ても、米軍の世界的再編下の日米同盟のもとで、ますます重い問題を集約的に負わされる沖縄の「今」を、「記憶と映像」シリーズの延長で集中的に議論するラウンド・テーブルを開催した。96 年創刊の雑誌『EDGE』を機縁に協力関係をもってきた４人の論者による討論。（企画、西谷）

主催：東京外国語大学大学院国際協力講座
百周年記念教育研究振興基金

国際協力講座「グローバルスタディーズ」公開セミナー

グローバル・ボーダー沖縄の今

2006.12.25
15:00 -18:00

東京外国語大学
研究講義棟４F
401－3

講演者；
仲里　効（APO）
田仲康博（ICU）
鵜飼　哲（一橋大学）

司会；
西谷　修（東京外国語大学）

仲里　効
1947年、沖縄大東村生まれ。EDGE編集長。著書に『オキナワンビート』『ラウンドボーダー』『複数の沖縄』（共著）など。映画『夢幻琉球・つるヘンリー』（高嶺剛監督）共同脚本。2003年山形国際ドキュメンタリー映画祭コーディネーター。『コンディションデルタ・沖縄』監督。

田仲康博
1954年沖縄生まれ。社会学博士（ウィスコンシン大学）'05より国際基督教大学国際関係学科教員。専門は、メディア論、文化研究、ポストコロニアリズム研究。共著に『メディア文化の権力作用』『越える文化、交錯する境界』『空間管理社会』『沖縄に立ちすくむ』など。

鵜飼　哲
1955年東京生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程中退。一橋大学教員。フランス文学・思想専攻。著書に『償いのアルケオロジー』『抵抗への招待』『応答する力』他。翻訳書にジャン・ジュネ『恋する虜』（共訳）『アルベルト・ジャコメッティのアトリエ』、ジャック・デリダ『亡者の記憶』『生きることを学ぶ、終に』他。

問合せ：
大学院共同研究室
TEL/FAX:042-330-5439
daigakuin-kyodo@tufs.ac.jp